

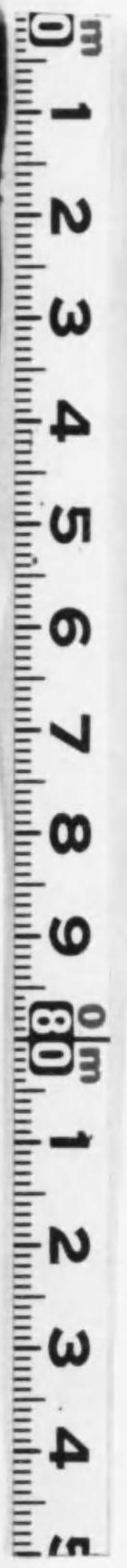
放下僧

昭和改訂版
外九

特261
288

56

8



始



放下僧

(梗概) 下野國の住人牧野左衛門といふ者、相模國の住人利根の信俊といふ者と口論の末討ち果されしが、左衛門の一子小次郎日頃無念と思ひ、邊り近き寺に入りて僧となれる兄を訪ね、復讐の事を談合し、兄の邊巡するを勵まして、遂に兄弟意を決し、その頃流行せる放下僧に扮して敵を狙ふ、爰に信俊は赤續き夢見悪く武藏國瀬戸の三島明神に參詣せんと旅立ちしが、旅中の徒然を慰めんと、彼の兄弟の放下僧を呼び、禪家の問答など始めしに、兄弟はそれと敵の信俊なることを覺り、放下のならひとしての羯鼓を打ち、小唄をうたひ舞ひなどする隙に乗じ、首尾よく信俊を討ちて其本望をとげし現在物の一曲なり。

シテ	小次郎の兄
ツレ	牧野小次郎
後シテ	前同
後ツレ	前同
ワキ	利根信俊
所	武藏國瀬戸
季	不定

叔下僧

^相是も下僧に此位人牧野の左衛門
 何事か子に、小次郎と申者よてい、おも
 親よてい者か、相摸國の位人利根の位
 後よ討ちあつてい、我おが親乃、敵此事、近
 國よおみて、其つてい、れなくい、とも、彼を

又

猛勢家ホトシ兄弟あつていぢあひ
福^{モウゼイ}の思^トふはつあひつ又^ト思^トふはつあひ
え結^上あつるつあひつ幸^トあつたつひ福^トあつ
越^トう格^トの事^トをも讀^ト合^トせま^トあつたつ
しうふは内^ト入^ト案^ト内^ト中^トふ^ト小^トの事^トあつて
小^ト次^ト節^トあつたつあひつあつたつあつたつ

あ何^ト乃^ト為^トれはあひつあつたつ
そあつる事^トよの俊^トはあつたつあつたつ
の敵^トれと^トを國^トはたつて甘^トいあつたつ
あつたつあつたつあつたつあつたつ
あつたつあつたつあつたつあつたつ
あつたつあつたつあつたつあつたつ
あつたつあつたつあつたつあつたつ

を^{キヤウ}敬と弟あつてい^{キヤウ}た^{キヤウ}く^{キヤウ}は^{キヤウ}程よ^{キヤウ}思^{キヤウ}ふ^{キヤウ}り
く^{キヤウ}ひ^{キヤウ}あ^{キヤウ}く^{キヤウ}は^{キヤウ}尊^{キヤウ}可^{キヤウ}を^{キヤウ}は^{キヤウ}信^{キヤウ}ら^{キヤウ}く^{キヤウ}し^{キヤウ}也^{キヤウ}親
の^{キヤウ}敬^{キヤウ}を^{キヤウ}い^{キヤウ}て^{キヤウ}ぬ^{キヤウ}者^{キヤウ}は^{キヤウ}不^{キヤウ}孝^{キヤウ}此^{キヤウ}身^{キヤウ}と^{キヤウ}申^{キヤウ}事
此^{キヤウ}は^{キヤウ}我^{キヤウ}の^{キヤウ}敬^{キヤウ}を^{キヤウ}不^{キヤウ}敬^{キヤウ}者^{キヤウ}を^{キヤウ}不^{キヤウ}孝^{キヤウ}此^{キヤウ}身^{キヤウ}と
ぬ^{キヤウ}く^{キヤウ}の^{キヤウ}事^{キヤウ}を^{キヤウ}尊^{キヤウ}可^{キヤウ}を^{キヤウ}信^{キヤウ}の^{キヤウ}人^{キヤウ}乃^{キヤウ}中^{キヤウ}
あ^{キヤウ}く^{キヤウ}た^{キヤウ}る^{キヤウ}は^{キヤウ}行^{キヤウ}は^{キヤウ}く^{キヤウ}し^{キヤウ}也^{キヤウ}親^{キヤウ}の^{キヤウ}敬^{キヤウ}

ホ

ニ

を^{キヤウ}敬^{キヤウ}て^{キヤウ}孝^{キヤウ}よ^{キヤウ}哉^{キヤウ}あ^{キヤウ}く^{キヤウ}た^{キヤウ}る^{キヤウ}ら^{キヤウ}を^{キヤウ}れ^{キヤウ}の^{キヤウ}也^{キヤウ}
を^{キヤウ}謂^{キヤウ}ち^{キヤウ}い^{キヤウ}ふ^{キヤウ}也^{キヤウ}出^{キヤウ}の^{キヤウ}子^{キヤウ}に^{キヤウ}や^{キヤウ}女^{キヤウ}を^{キヤウ}忌^{キヤウ}虎
に^{キヤウ}い^{キヤウ}て^{キヤウ}其^{キヤウ}の^{キヤウ}敬^{キヤウ}を^{キヤウ}不^{キヤウ}敬^{キヤウ}と^{キヤウ}い^{キヤウ}て^{キヤウ}百^{キヤウ}日^{キヤウ}事^{キヤウ}伏^{キヤウ}
野^{キヤウ}多^{キヤウ}よ^{キヤウ}也^{キヤウ}出^{キヤウ}の^{キヤウ}子^{キヤウ}に^{キヤウ}や^{キヤウ}女^{キヤウ}を^{キヤウ}忌^{キヤウ}虎^{キヤウ}事^{キヤウ}あり^{キヤウ}に^{キヤウ}
尾^{キヤウ}上^{キヤウ}の^{キヤウ}ね^{キヤウ}を^{キヤウ}亦^{キヤウ}く^{キヤウ}く^{キヤウ}れ^{キヤウ}よ^{キヤウ}と^{キヤウ}い^{キヤウ}ら^{キヤウ}よ^{キヤウ}也^{キヤウ}大^{キヤウ}
石^{キヤウ}の^{キヤウ}み^{キヤウ}し^{キヤウ}を^{キヤウ}敬^{キヤウ}虎^{キヤウ}と^{キヤウ}忌^{キヤウ}得^{キヤウ}つ^{キヤウ}く^{キヤウ}入^{キヤウ}る^{キヤウ}年^{キヤウ}也^{キヤウ}

ホ

ニ

ねがふものぞらへおつ。其の矢別、山家より
 たちかゝる血流きたるとこそそ承及くゆへ
 只おほしるはさしゆく 一して 西ふさきたとく
 ちりて承は程よはふさひさひやまを
 ちりて承は程よはふさひさひやまを
 ちりて承は程よはふさひさひやまを
 ちりて承は程よはふさひさひやまを

教下ねてはたなくゆあつたれ教下には
 成あまらうと存ゆ 一して 言ふ是れ花よそゆ
 けあはば教下にあらふさふさあまきゆ
 引上
 ちりて承は程よはふさひさひやまを
 ちりて承は程よはふさひさひやまを
 ちりて承は程よはふさひさひやまを
 ちりて承は程よはふさひさひやまを

上て... 風よ但するほおの... 種と心や成ぬん
 上て... 面白の花乃都や... 草よまをせ及ば... 東
 上て... 少は... 園... 水... 流... 音... 羽... 此... 嵐
 上て... 地に... 此... 梅... ちりり... 一... 遍... 法... 痛... 心... 家... の
 上て... 清... 水... 流... ぬ... れ... ぬ... 車... 此... 靴... の... 井... 戸... の
 上て... 此... 川... は... 何... 物... を... 取... ら... ぬ... ら... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ...

上て... 雀... 竹... よ... ま... ま... る... る... の... 雀... の... 風... の... ぬ... ぬ...
 上て... 多... 都... 乃... 半... の... 車... の... 心... 流... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ...
 上て... 扱... 本... よ... も... ま... る... る... 実... 謀... 志... ら... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ...
 上て... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上...
 上て... 上... の... 行... 乃... 代... の... 心... 流... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ... ぬ...
 上て... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上...

好

好

二人上
 ねとらしいおぬまの母とて 此年月を
 ねとの末今うそとほまき影ひの供よ
 敵をぞ討つりける。かくて兄弟を
 かねく其影のあましく包地よ親の
 敵をいふも孝り深まゆえぬ
 久も末代よとめたり

昭和九年三月廿五日印刷
 昭和九年三月三十日發行

定價金五拾錢

著作權所有



東京市下谷区上根岸町八十二番地

著作者 實生 新

東京市京橋區銀座西六丁目五番地

發行兼印刷者 江島 伊兵衛

發行所 下掛實生流談本刊行會

終

